

## 第 13 章 環境保全啓発事業・環境教育

### 1 環境保全啓発事業

#### (1) 環境月間

環境省では、環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする1ヶ月間を環境月間と定め、広く国民一般に環境活動への積極的な参加を普及啓発しています。本市においても、環境月間の趣旨を市民、事業所等に啓発するため、各種の行事を実施しています。

平成25年度の行事は、表13-1(1)のとおりです。

表 13-1(1) 環境月間行事内容

(平成25年度)

行 事 名	内 容	場 所 等
「環境の日」キャンペーン	地球温暖化、ごみ減量化、不法投棄防止などの環境保全意識高揚を図るため街頭啓発を実施	市内店舗4箇所
いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動	6月と10月に海岸、公園及び家庭周辺等の一斉清掃を実施。	市内全域 参加人数： 春：122,449人 秋：99,240人

#### (2) 再生可能エネルギー啓発事業

再生可能エネルギーについて理解を深めてもらうため、小中学生を対象とした副読本「みんなの再生可能エネルギータウン」の作成や出前講座「再生可能エネルギーって何？」の開催など、次世代を担う子供達をはじめ、市民への啓発事業を実施しています。

## 2 環境教育・普及啓発の推進

### (1) 環境アドバイザー派遣事業

本市では、環境に配慮したまちづくりを推進するため、自然とのふれあいや野外観察、健康な暮らし、緑化、省エネルギーや省資源の方法など、市民の皆様が自発的な環境保全活動に取り組むに当たって、参考となる知識を提供する「環境アドバイザー」を市内各地へ派遣しています。

平成 23 年度は東日本大震災の影響により事業を中止しておりましたが、平成 24 年度は事業を再開しました。

表 13-2(1)-1 環境アドバイザー派遣実績

年度	受講者数(人)	派遣回数(回)	派遣人数(人)
平成 20 年度	1,563	40	58
平成 21 年度	2,086	55	88
平成 22 年度	1,910	50	75
平成 24 年度	1,016	24	30
平成 25 年度	1,679	53	56

#### ～環境アドバイザーの派遣申請等について～

市民のみなさまが市内において、参加者 10 人以上の環境に関する講演会や講習会、自然観察会を主催する場合、講師として「環境アドバイザー」を派遣しています。派遣を希望される方は開催予定日の 30 日前までに環境企画課までお申込みください。

また、「環境アドバイザー」として登録していただける方についても随時募集しておりますので、登録を希望される方は環境企画課までお問い合わせください。

#### 【お申込みにあたって】

- ▼ 講師の謝礼・交通費は市が負担しますが、会場・資料など開催に必要な準備は主催者にてご用意ください。
- ▼ 講演内容等の具体的な事項は、主催者とアドバイザーにて協議していただきます。
- ▼ 政治、宗教、営利を目的とした講演会等への派遣はいたしません。

表 13-2(1)-2 環境アドバイザー派遣内容一覧

(平成26年8月28日現在)

分類	講演内容	講師氏名		
自然環境	自然観察会・自然体験活動指導等	自然環境(自然体験活動)生命の命のつながり	野口 紘	
		幼児期の自然体験活動の支援・指導	野口 ミツ子	
		小中学校での総合学習の支援・指導	草野 秀雄	
		環境学習の支援・指導		
		自然環境学習	根本 輝男	
		天体観察及び天体観測の解説及び指導	桂 伸夫	
	企画	自然観察会のプログラム企画と実施	天体観測を通じた自然環境保全への啓発	野口 紘
				野口 ミツ子
	水質調査	水生生物による水質調査指導 川・海の水質調査指導		草野 秀雄
				大谷 善浩
	環境教育	自然体験活動から始まる環境教育(森林・河川・海の環境、命のつながり) 農業廃水路の環境教育 風力推進車 子供達に必要な環境教育 「自然環境と人間とのかかわり」を基礎とした環境教育及びその支援 自然環境全般		平川 英人
				野口 紘
				石塚 諒
				佐藤 烈
	自然環境保全	環境影響評価(環境アセスメント)について 日常生活での身近な問題(海・地球の浄化について)		鈴木 信一
			高木 力	
植物	ハーブを育てることを通じて自然の営みを理解する		小林 健四郎	
			宮内 眞佐子	
生活環境	生活排水	水環境と生活排水	柄内 賢一	
		水環境と生活との係わり		
		雨水の利活用	橋本 孝一	
		水循環	佐藤 烈	
	ごみ・廃棄物	日常での身近な問題(海・地球の浄化について) 廃棄物・3R推進 廃棄物の有効利用について リサイクル・リユース・リデュース・3Rの大切さを実践 ゴミ問題 生ごみ堆肥化方法のいろいろ(密閉容器、密閉式ビニール袋、段ボール箱、発泡スチロール箱等の方法を組み合わせ、庭・畑・プランターで利用) 家庭でできる生ごみの減量と有効利用(生ごみ堆肥化方法、EMぼかし法、段ボール箱・ト口箱利用等)		小林 健四郎
				青木 敏春
				高木 力
				宮内 眞佐子
				小林 健四郎
				先崎 久美子
都市環境	公害・化学物質	大気、水質、騒音、振動、悪臭問題について	高木 力	
		農業の使用と生体について		
		有害物質と生態系について		
		大気、水質、土壌、地下水汚染問題 物質(化学物質等)循環等	青木 敏春	
省エネルギー・再生可能エネルギー	省エネルギー対策 自然エネルギー教室(手作りソーラーパネル講習会、太陽光パネルを利用した体験学習、マイクロ水力による水力発電講習、ソーラークッカーによる太陽熱講習、市民施工による太陽光発電所施工講習、災害に備える独立電源) 循環型社会 再生可能エネルギーの推進の必要性		佐藤 烈	
			青木 敏春	
			島村 守彦	
広域環境	地球環境	地球温暖化	石塚 諒	
		地球温暖化と地球にやさしくらしめた(家庭での省エネルギー、環境家計簿の普及、ヒートアイランドとその対策)	青木 敏春	
		地球環境問題と生活との係わり	柄内 賢一	
		地球温暖化・気温上昇の要因と今後の予測	橋本 孝一	
		地球温暖化	石塚 諒	
	地球温暖化について	小林 健四郎		
		根本 輝男		

(2) 出前講座等

環境問題や公害防止に関して必要な知識の普及・啓発を図るため、市役所出前講座などに市職員を講師として派遣しています。平成25年度の実施状況は、表13-2(2)のとおりです。

表13-2(2) 出前講座等への講師派遣実績 (平成25年度)

事業名	目的	開催場所	参加者合計人数
省エネで快適エコライフ	地球温暖化防止のため、家庭で資源やエネルギーを効率的に利用して、温室効果ガスの排出を出来るだけ少なくすることが必要であることを考えます。	いわき市立磐崎中学校	28人
地球温暖化を考えよう	地球規模の深刻な問題である地球温暖化について、その仕組みや私たちの生活に対する影響などを考えます。	いわき市立湯本第三中学校 ほか1カ所	54人
再生可能エネルギーって何?	「再生可能エネルギーとは何か」「なぜ再生可能エネルギーが必要なのか」について学習します。	いわき市立平第一小学校 ほか3カ所	184人
くらしと環境問題 “いわき市の環境”	環境問題、本市の環境・公害の現状等を知ることにより、環境保全に対する意識の高揚を図る。	いわき市立磐崎中学校 ほか1カ所	164人
いわき市の環境を守る現場 (施設見学)	環境監視センターを見学し、いわき市の環境保全と公害防止対策の現状について学ぶ。	環境監視センター	25人
川の生き物観察会	川の生き物を調べながら水の汚れ等について考える。	四時川	19人
ごみのおはなし～ごみの減量とリサイクルについて学ぼう～	ごみを減らすことやリサイクルすることの大切さを、いわき市のごみの現状を踏まえ学習します。	東日本国際大学 ほか6カ所	341人

(3) せせらぎスクール

福島県では、例年、小中学校、高等学校、各種市民団体等を対象とした「水生生物による水質調査」を行う団体を『せせらぎスクール』として募集していましたが、東日本大震災により発生した放射能汚染等の問題により、平成23年度以降は募集を行っておりません。事業の再開が決まりましたら、市ホームページ等でお知らせします。

なお、本事業概要は次のとおりです。

- ① 対象 小・中学生、高校生、各種団体等
- ② 実施時期 6月～9月末
- ③ 活動内容

川底から採取した水生生物について、定められている30種類の指標生物に照らし、その種類と数により水質を判定します。

- ④ 教材の提供  
参加団体には、福島県から調査に必要な教材を提供します。
- ⑤ 活動状況

県内の延べ参加者数は7,895名で平成9年度から14年連続全国第一位であり、平成22

年度における市内の延べ参加者数は742名となっています。

平成22年度の参加団体は、表13-2(3)のとおりです。

表13-2(3) 市内のせせらぎスクール参加団体

(平成22年度)

No.	団体名	参加人数
1	いわき市立久之浜第一小学校 5学年	51名
2	いわき市立上遠野小学校 第4学年1組	39名
3	いわき市立桶売中学校 第3学年選択理科	9名
4	いわき市立好間第一小学校 第5学年	85名
5	いわき市立川前小・中学校	20名
6	小川郷農地保全会	40名
7	かわせみ流域会	50名
8	下小川関場子供会	38名
9	福岡・環境を守る会	33名
10	上高久子供会	50名
11	いわき市立中央台北中学校	12名
12	福島県立勿来高等学校 理科学研究部	10名
13	いわき市立沢渡小学校	37名
14	昌平高校エコクラブ	12名
15	いわき市立綴小学校	12名

(4) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、将来を担う子どもたちが主体的に行う環境保全活動や環境学習を支援するクラブです。事業概要は、次のとおりです。また、本市における平成25年度の登録団体は、表13-2(4)のとおりです。

① 対象 幼児、小・中学生、高校生

② 実施時期 通年

③ クラブの設立方法

- 1人から登録可能
- サポーター（大人）が1人以上必要  
※サポーターとは、クラブの活動を補助する大人（連絡係）のことです。
- こどもエコクラブ全国事務局への登録手続きが必要

④ 教材の提供

活動のヒントとなる情報などが記載されたニュースレター（年4回）や、指導者向けプログラム等の支援ツールが提供されます。

表13-2(4) こどもエコクラブ登録団体

(平成25年度)

クラブ名	クラブ人数	グループの種類
いわき市立石住小中学校	メンバー 5人 サポーター 11人	学校・委員会
小名浜二小4年エコクラブ	メンバー 77人 サポーター 3人	学校・学年

(5) 星空観察会

星空観察（スターウォッチング）は、いわき天文同好会と共に本市共催事業です。参加者に光害や大気汚染などのない清澄な大気への関心を高めてもらうことを目的に、肉眼、双眼鏡、カメラを使った身近な方法による星空観察を毎年2回（夏期及び冬期）実施しております。平成25年度の実施状況は、表13-2(5)のとおりです。

表13-2(5) 星空観察会実施状況

場 所	参加者数
いわき市高久公民館	104人(夏:61人 冬:43人)

(6) 環境にやさしいくらしかたをすすめる会

本市では子供達の環境保全に対する理解を深め、また、意識高揚を図ることを目的とし、市内の小中学生を対象とした環境保全をテーマとする標語を夏休みの課題として募集し、その作品を表彰・発表するもので、「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」との共催により行っております。平成25年度の実施状況及び受賞作品は、表13-2(6)-1、13-2(6)-2のとおりです。

表13-2(6)-1 第10回「いわき子ども環境賞」コンクールの実施状況

部門	延べ応募作品数	延べ受賞者数
標語の部	567作品	最優秀賞1、優秀賞5、佳作7、計13件

表13-2(6)-2 第10回「いわき子ども環境賞」コンクール受賞作品一覧

	受賞作品	
最優秀賞	リサイクル つぎはだれかの やくにたつ	中央台南小 廣原 菜々子
優秀賞	マイバック マイはしつかって エコライフ	中央台南小 佐々木 岳
	守ろうよ 緑の自然 清き水	入遠野中 折笠 勇大
	ゴミ拾い 捨てない町と 拾う町	植田中 大津 香穂
	すぐ捨てる そんな時代は もう終わり	湯本三中 花塚 真由
佳作	クーラーを 付けずに今は 緑のカーテン	岩崎中 松崎 紗希
	エコ活動 みんながやれば 未来は変わる	入遠野中 平子 瞳
	環境を 汚すも守も 自分自身	湯本三中 齋藤 彩音
	考えよう 地球の明日 自分の未来	湯本三中 三瓶 那月
	明日のため 未来のために 省エネを	岩崎中 結城 将也
	My はし! My バック! My ポット!	岩崎中 山下 和真
	ポイ捨ては 地球に対する いじめです	岩崎中 織内 佳那
いらぬ物 知恵を出し合い リサイクル	岩崎中 青木 枢	